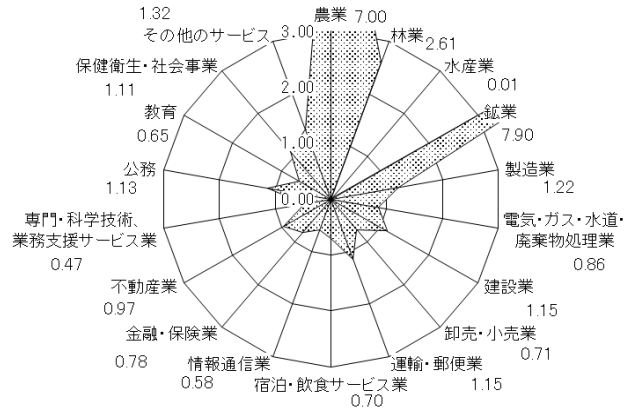


5 産業構造

宮城県を1.00とした経済活動別の特化係数で登米地域の産業構造をみると、鉱業が7.90と最も高く、次いで農業7.00、林業2.61と続きます。経済活動別の構成比をみると、製造業が19.2%で最も高く、次いで不動産業11.7%、卸売・小売業11.0%と続きます。経済成長率は0.8%減(30年度7.2%減)となり、3年連続のマイナス成長となりました。主に建設業のマイナスが要因となりました。

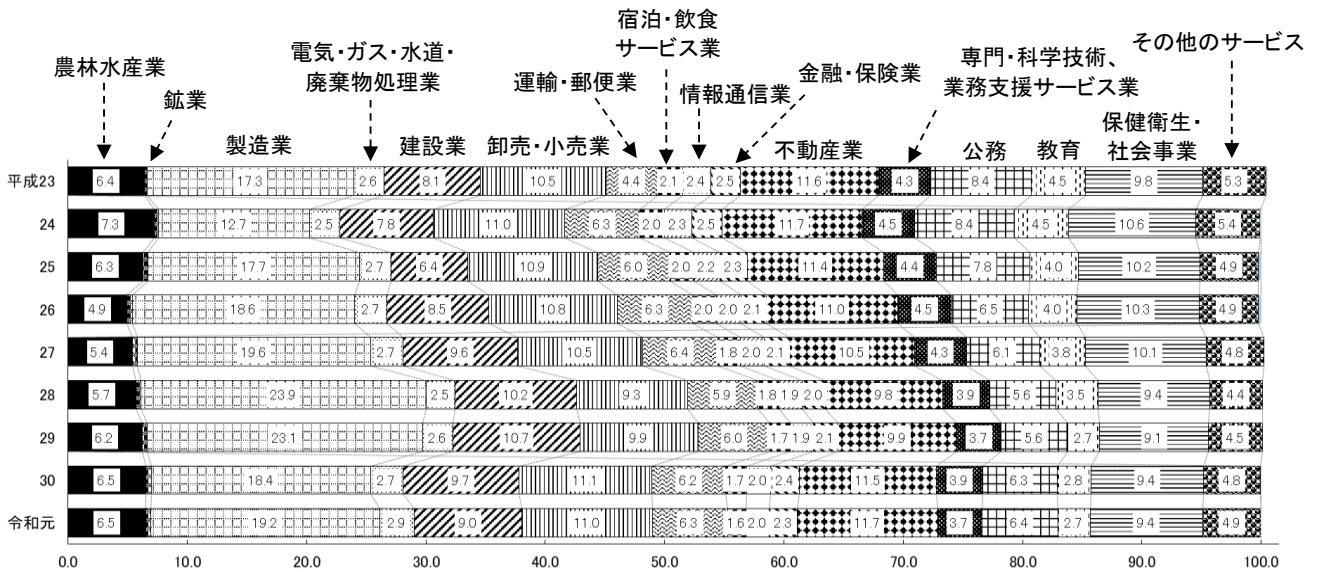
—経済活動別特化係数(令和元年度)—



資料:令和元年度宮城県市町村民経済計算

※1特化係数とは、県平均と比較してどの程度偏っているか(特化しているか)を見る指標で、産業構造の特徴を把握するために使われるもの。県の経済活動別構成比を1.00として、それよりも高ければ県平均に比べ相対的に特化しているといえる。

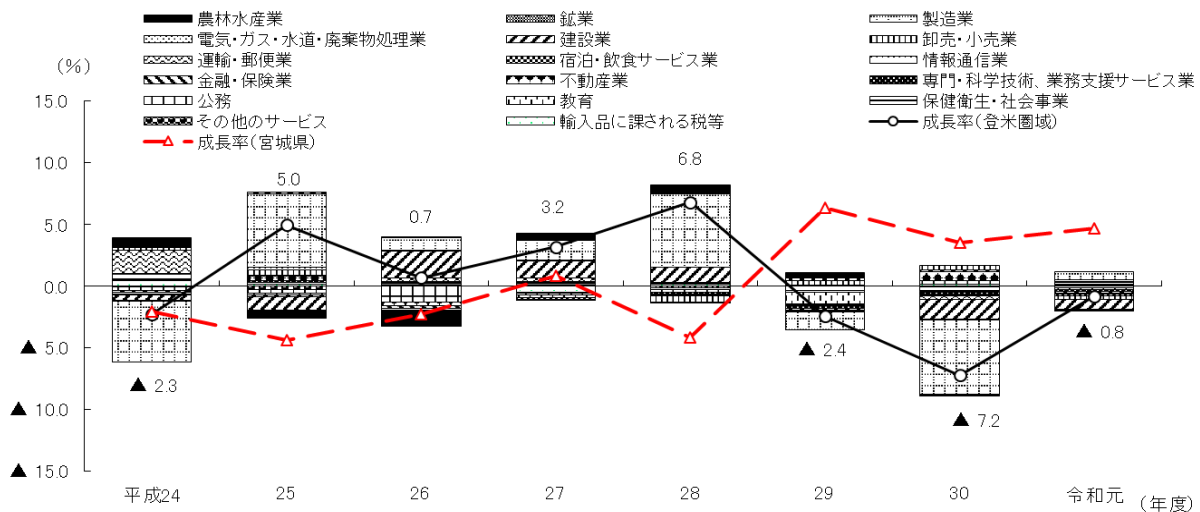
—経済活動別総生産の構成比の推移—



※2 加算・控除項目である関税等が含まれるため、数字の合計は100%とならない。

資料:令和元年度宮城県市町村民経済計算

—経済活動別寄与度及び対前年度増加率(経済成長率)の推移—



資料:令和元年度宮城県市町村民経済計算